

チャレンジ！
野菜づくり

栄養豊か、花も
楽しめるオクラ

夏を越して晩秋まで果実(莢果)を取り続けることができ、フヨウに似た黄色い花は観賞用としてもめでられ、家庭菜園や庭先、プランター栽培ともにお勧めです。アオイに似た花は観賞価値もあり、秋遅くまで咲き続けます。花も実もある重宝な野菜といえます。

り、サラダやてんぷら、みそ漬け、かす漬けにと、使い道が広いのも魅力です。

高温性で昼は25〜30℃、夜は20〜23℃が適温で、10℃以下の低温では生育がまったく停止し、葉が黄変、落葉してしまいます。畑に植えたが一向に伸びず、落葉、枯死するという声がよく聞かれるのは、苗が低温に遭っていたり、植えた畑が寒過ぎたりした場合が多いのです。これを水不足と勘違いして水をやり過ぎると地温がさらに下がり、過湿となり立ち枯れ病が発生したりして失敗を助長してしまいます。

育て方のポイントは、苗は3号ポリ鉢に、一晩水に浸した種を4〜5粒まき、20℃ぐらいに加熱して育てるか、市販の苗を買い求め、

暖かい場所で再育苗し、十分暖かくなつてから畑に植え出します。最近はずいぶん早くから店頭で苗が並びますが、買い急ぎは禁物、失敗して再び苗を求めなくてはならない状態になってしまいます。

(図1)のように黒色ポリフィルムをマルチし、地温を上げてから植えることをお勧めします。

オクラの育ちをよく見ると、初期には枝分かれせず、1株当たりの花・果数は少ないので、それを補い、早期収量を高めるために、畑でもプランターでも、1カ所に2株ずつ植えること(図2)を勧めます。前半は葉もあまり込み合わないので、これでもちょうど良いのです。盛んに育ち枝が伸びだしてきたら、主枝の上の方を摘心し(図3)側枝に日を当て、健全に伸びるよううにします。

半月に1回、1株当たり小さじ1杯ぐらいの化成肥料を追肥します。

近頃各地で葉を筒状に巻き食害するワタメイガの発生が見られます。発見次第捕殺するか、適応殺虫剤を散布して防ぎましょう。

肥料・農薬のご紹介

頑固な雑草にお悩みなら…

非農耕地用除草剤

「ハイバーX粒」



暖かくなる季節に向けて悩むのが、どんどん生えてくる雑草！

- 空地や住宅・倉庫の周囲
- 駐車場
- 墓地

広葉雑草・イネ科雑草に対して一年生・多年生を問わず除草効果を発揮します。しかも、長期間(約6カ月)にわたり雑草の発生を抑えます！

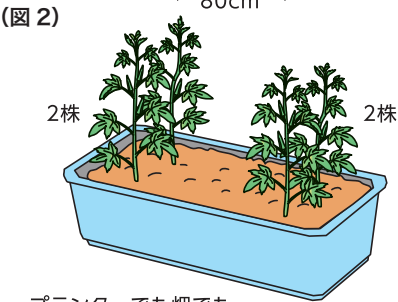
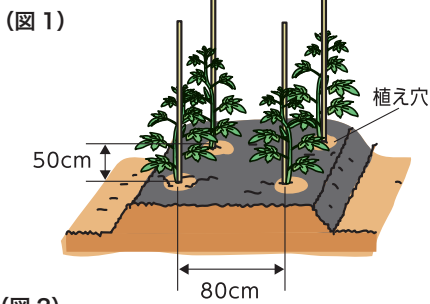
ポリ容器だから、手軽にまけて、さらに効果も強力！

1本(1kg)で約20坪(70㎡)散布できますので、一度、お試しください。

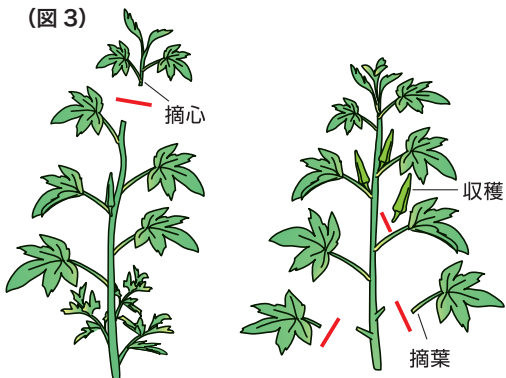
【注意】

- ・樹木や花・作物の近くでは使用しないでください。
- ・松はハイバーX粒剤に特に弱い木ですので、松の木の近くは避けましょう。
- ・ラベルに基づき、ご使用ください。

※お気軽に各営農センター(営農購買課)へお問い合わせください。



プランターでも畑でも1カ所2株ずつ植える



株が大きく育ったら主枝を摘心し側枝を伸ばす

果実を収穫したらその下方の葉は摘み取る



今月の農家さん

家族や地域とともに歩む農業

守山市勝部一丁目

小島良和さん(70才)



環境にこだわった特別栽培米『生米』を作付されている小島さん。「家族や近所の方に、安全でおいしい物を食べてもらいたい」と、野菜もなるべく農薬は使わず、有機肥料で育てておられます。

そんな小島さんの楽しみは、田植えや収穫の時に、家族が手伝いに来てくれること。みんなで農作業を終えた後には、庭で焼肉パーティーをして、一家団らんするそうです。そんな時に『おじいちゃんの作ってくれたお米や、野菜はやっぱりおいしい』と言ってもらえると、農作業の疲れも吹き飛びます」と、小島さんは

笑顔で話されました。

さらに小島さんは、地域の学校やこども園で、稲や野菜などの育て方を、長年教えておられます。天候によっては収穫ができない事もありますが、それでも、子どもたちにお礼を言われたり、名前を覚えてもらっていたりすることが来年へのモチベーションになっています。

小島さんは「農業に全国共通の教科書はありません。地域ごと、作物ごとに『現場・現物・現実』を見る事が大切だと思います」と話してくださいました。

営農情報

水稲除草剤を使う際のポイント

■代かき作業

田面がデコボコですと除草効果にムラが生じますので、代かきを浅水で丁寧に行い、田面の均平を図るとともに保水性を良くしましょう。また、小動物などの穴や崩れがないよう畦畔を確認しましょう。

なお、水持ち不良の水田では、フロアブル剤やジャンボ剤よりも粒剤を使用した方が効果が期待できます。また除草剤を散布する時は苗を水没させない範囲で水深を5cm以上に保つと効果的です。

■止水管理

除草剤は溶けだした有効成分が数日かけて土壌表面に薄い除草剤の層(処理層)を作り、この処理層に雑草の芽などが触れることによって除草効果を発揮します。処理層は少しずつ分解されていますが、除草効果がなくなりませんが、できるだけ処理層を長持ちさせるため次のような止水管理を行います。

- 田面の露出がないように水をしっかり張り、水口と水尻を閉じる。
- 除草剤散布後1週間は原則とし

て田面が露出しても入水・落水はしない。
● 処理層を壊さないようにほ場に

